

「プレスネット」(vol.910)

平成 30 年 6 月 21 日掲載



かつて大学時代の友人が、広島大学での学会に参加するため、東広島駅に降り立ったが、大学への道順が分からず、途方に暮れたとの話を聞いた。私自身、JR西条駅で、ときに見知らぬ人が



菅川健二
(法学・地方自治)

学園都市にふさわしい表玄関

東広島駅・西条駅に大学の案内板を

ら大学への行き方を聞かれることがある。

振り返ってみると、東広島市の誕生は、広島大学が本市への統合移転を決定したことが引き金となったのである。1970年代当時、全国的な大学紛争を契機に、

転は、賀茂学園都市構想を推進していた広島県や地元町村の尽力により1973年に西条町へ決定された。その際、筑波の事例を反面教師として、地域が一体となつてサポートするため、翌74年4月に関係4町(西条町、

る広島国際大学が加わったのである。

現在、グラウンドなど西条キャンパスがあるエリザベト音楽大学を加えると、4大学が東広島市に所在することとなり、教職員数、学生数は合わせて約2万4000人に及んでいる。

八本松町、志和町、高屋町)が合併し、「東広島市」が発足したのである。

その後、1991年には、西高屋地区に呉市内から近畿大学工学部が移転し、2005年には、黒瀬町との合併により、同町に所在する

「東の筑波、西の広島」と大学を核とする学園都市構想が2大国家プロジェクトとして推進されたが、先行する筑波研究学園都市は関係地域が6カ町村に及び地元との調整が難航したのである。一方、広島大学の統合移

を背景として東広島市の総合計画では、「学園都市」(第3次計画)、「国際学術研究都市」(現行の第4次計画)を将来の都市像としており、その推進窓口としてこの

4月に学園都市推進課が設けられ、内外に向けて情報を発信している。

この際、広く大学学術関係者を温かく迎え入れる意味からも、東広島市の表玄関ともいえる東広島駅や西条駅など主要駅の構内か駅前広場に学園都市としてふさわしい大学の案内板が設置されることを望みます。



過去の記事

広島大学マスタースは、広島大学を退職した教職員で組織しています。市民を対象にした講座も行っています。
【問い合わせ】
kazuwp@hiroshima-u.ac.jp (渡部)